第２回　穴水町地域公共交通協議会
議　事　概　要

平成 20 年 11 月 5 日（水）　10：00～12：00
場所：穴水町役場　１階　会議室

所　属		氏　　名	出欠
委員会メンバー	穴水町 副町長　【会長】	大霜　祥栄	○
	金沢大学 教授　【副会長】	高山　純一	○
	石川県奥能登土木総合事務所 維持管理課長	坂本　富士雄	○
	(社)石川県バス協会	西宮　義人	○
	のと鉄道(株) 代表取締役	鷲嶽　勝彦	○
	石川県タクシー協会 監事	近藤　豊	×
	穴水町 区長・町内会長連絡協議会 会長	村上　太一	○
	穴水警察署 交通課 課長	西川　忠	×
	北陸信越運輸局 石川運輸支局 主席運輸企画専門官	内田　裕二	○
	石川県 企画振興部 新幹線・交通政策課 課長補佐	中田　重幸	○
	穴水町 商工会 副会長	吉村　多作	○
事務局	企画情報課 課長	吉間　篤	○
	〃　課長補佐	黒崎　誠	○
	〃　課長補佐	岡崎　善二	○
	㈱日本海コンサルタント	中田　和彦	○
	〃	眞島　俊光	○

議事次第

１．開会
２．あいさつ
３．議事
　（１）計画策定スケジュールについて
　（２）現況と課題について
　（３）住民アンケートについて
　　・依頼文
　　・世帯主・公共交通を必要としている方用のアンケート票
　　・中学生・高校生用のアンケート票
　　・石川県が実施したアンケート票
　（４）事例（視察先）について
　（５）その他
４．閉会

主な発言（検討）内容

■　高山副会長挨拶

高山副会長：最近、各地で公共交通の連携計画を策定するために協議会が立ちあげられ、会議が開催されている。いずれの地区も必至で取り組んでいる。
私は金沢に住んでおり、昔に比べればバスの便数が減少しているが、車で通勤しているため、それほど不便に感じていない。遅い時間になるとバスの便数が少ないと不便に感じる程度で、贅沢な悩みともいえる。
しかし、能登地域では贅沢な悩みではなく、切実な悩みである。のと鉄道能登線、輪島線が廃止となり、現在では七尾と穴水を結ぶのみであり、利用者も減少していると聞いている。更に、人口減少や少子高齢化により、学校の再編が行われるなど、様々な課題がある。
地域交通会議において、様々な課題を整理し、早急な対応を検討することは非常に重要であるため、微力ながらお手伝いさせていただく。

■　大霜会長挨拶

大霜会長：先日の新聞でついに穴水町の人口が１万人を下回ったという記事が掲載された。
公共交通が無くなるとまちの魅力が低下し、人口が流出して町外からの流入も期待できなくなり、さらに人口が減少すると想定される。
小さい街だからこそできる仕組みを検討していきたいと考えている。
年度内にモデル事業をまとめたいと考えており、皆さんの協力をお願いしたい。

■　計画策定スケジュールについて（資料１）

高山副会長：かなり厳しい日程であることは理解した。
アンケートの回収についてであるが、全部帰ってくるのを待っていると集計することができないが、かといって帰ってきたものを無視するのも忍びない。回収率が５割を超えていれば気にしなくてもよいと考えるが、２～３割では１票でも多く回収したいところである。町で無線などはあるか。
大霜会長：町内放送があるため、利用したい。
高山副会長：アンケート配布後、一定期間が過ぎた後に、町民に呼びかけることにより、アンケート回収率を向上させることができる。

■　現況と課題について（資料２）

大霜会長：８頁に課題がまとめられているが、海岸線の集落にアクセスする路線が複雑になっている。さらに、少子高齢化などもあり、大きな課題となっている。
村上委員：課題にまとめられている通りであるが、財政が厳しいため、利用率の悪い路線や重複する路線の廃止はやむを得ないと考える。
通学にバスを利用する小中学生などの雨除けのために、バス停を設置してほしいという

要望がある。バス停を設置したいと考えているが、地主の了承を得ることができず、設置できない状況である。地域でバス停の設置や維持管理を行うので、町で土地を借りるなど、協力してもらいたい。

大霜会長：バス停について、了解した。

高山副会長：確認したいのだが、路線バス、転換バスなど、それぞれの特徴を教えてもらいたい。

事 務 局：路線バスは輪島方面を結ぶ路線で、転換バスは海岸線を運行し、能登町・珠洲方面を結ぶ路線である。また、コミュニティバスはJRバス撤退後の廃止代替路線であり、河内線、鹿島線が該当する。

福祉バスは平成16年から運行しており、運行当初は体の不自由な方のために走らせていたが、現在では65歳以上の方なら誰でも利用可能である。

のと鉄道の廃線に伴い、転換バスが町内の様々な地区を運行するようになり、本来の目的と異なってきている。

高山副会長：了解した。

鷲嶽委員：スクールバスに一般の人は乗れないのか。

事 務 局：一般の人は利用できない。ワンボックスサイズであり、路線バスが運行していない特別な地区のみ運行している。

鷲嶽委員：運行ルートを見ると、スクールバスが町の様々な箇所を運行しているように見える。

大霜会長：一般の人は乗せていない。様々なバスがあるため、今後、整理する必要がある。

高山副会長：数点修正箇所を指摘する。

１頁の人口・世帯では、バス利用者としては、前期高齢者より後期高齢者の方が多いと想定されるため、高齢者を区分すべきである。

２頁では、最寄品は地域内の移動であるが、買回品は広域的な交通が伴うため、のと鉄道や転換バスなどの広域的な公共交通を検討する必要がある。また、子供の通学とお年寄りの買物、通院など目的別にデータを整理できればよいと考える。

４頁の高速バスでは、利用目的・利用頻度を整理し、今後の路線廃止などに対応できるようにしておくべきである。

また、アンケートの中で、上記の意見が聞ければよいと考える。

鷲嶽委員：高速バスについては、あまり穴水町が主体となっていない。

高山副会長：北陸鉄道の路線を見ても、穴水町は通過するだけになっている。道路網が原因にもなっている。

鷲嶽委員：朝晩、数便穴水駅に来てくれるようになった。

西宮委員：金沢から能登方面に来る高速バスでは、“此木”で乗客の約半分が利用するなど、穴水の利用度は高い。

事務局　：駅前まで高速バスが運行するようになり、重宝している人が多い。

西宮委員：輪島に向かう方からは、余分に時間がかかるなどの意見が出ている。

高山副会長：のと鉄道とコミュニティバスが重複する路線を廃止するという意見もあるが、鹿島線ではバス停駅間距離が長いため、安易に廃止することは望ましくないと考える。

鷲嶽委員：町南部の鹿島線に“第二望洋台”と“志ヶ浦”というバス停があるが、ここにのと鉄道の駅が出来ればこの路線は必要ないと考えるが、駅設置の経費が高いため困難である。

内田委員：８頁の課題に記載されているが、バス路線が重複している印象がある。そのため、課題

の⑥（重複箇所の解消など）の検討がメインになるのではないか。
大型バスが運行できない箇所であれば、中型、小型化するなどにより、一つの機材（車両）で地区をカバーすべきである。

大霜会長：商店街からの意見はあるか。

吉村委員：商店街からは特に異論はないが、人も車も通らない現状からみて、もっとバスが通過した方が、賑わい創出になるのではないかと考えている。
穴水高校経由の路線は運行経路が複雑であり、市街地や高校を経由せず病院に直行するなど、利用者の立場になって経路を検討してもらいたい。
また、様々な方面からバスが市街地に集まるため、道路が狭い箇所ではバスが複数続いて通過すると事故の危険がある。

村上委員：福祉バスは高齢者のために運行しているが、転換バスの運行により本来の目的と異なっている。そのため、利用率の少ない路線や便を廃止し、利用率の高い路線や便について、便数の増加などで対応を検討すべきである。
アンケートについてであるが、普段バスを利用しない人も、バスがあったら便利という考えから、バスを通してほしいという意見がでると想定されるため、普段から利用する人の意見を重視してもらいたい。
空気を運ぶバスが存在するため、利用度に合わせたバスの運行をしてもらいたい。

吉村委員：以前は路線バスが１台も走っていない地区であったが、コミュニティバスが運行するようになり、住民は喜んでいる。また、河内線は、JR バスの廃線に伴い運行するようになったが、JR バス当時の運行本数より、現在の方が多く運行している。
財政負担は行政が行っており、赤字覚悟で走らせるのか、よく検討する必要がある。

大霜会長：そういったことも含め、今回の計画策定する中で、将来的なまちの方針を決めていきたい。

高山副会長：４頁のバス事業に関する支出の推移のグラフであるが、平成 17 年は路線バスの赤字補填が最も多く、転換バスが最も少ないのに対し、平成 18 年では逆転しているため、どういったことが原因なのか。

事 務 局：補助対象が変更している可能性があり、データを確認する。また、平成 19 年のデータも追加する。

■　アンケートについての意見（資料３）

大霜会長：世帯主用、世帯主以外の家族用、中学生・高校生用と３種類のアンケートがあるが、家族用では誰が記載するのか。

事 務 局：依頼文に記載しているが、ご家庭の中で公共交通を利用している方１名に記入してもらう予定である。中学生・高校生についても複数いる場合、１名の方に記入してもらう。

大霜会長：家族といってもお年寄りと若い人ではバスの利用目的が異なり、それぞれに対応できるアンケートになっているのか。また、３種類もアンケートが入っていたら、記入してもらえないのではないか。

事 務 局：中学生については、学校で実施してもらうことも考えているが、高校生は町外へ通学している場合もあり、郵送がよいと考えている。

大霜会長：学校に頼めるものは、頼めば良い。３種類も家庭に配布したら、混乱してしまう。

高山副会長：世帯主用には、家族の形態や属性（人数、必要であれば年齢構成）が分かる項目を追加すべきである。

大霜会長：家族構成として、高齢者がいるか、同居しているかなども世帯主に質問すべきではないか。また、世帯主に、同居のお年寄りがバスを利用しているか、それとも送迎しているかなどを聞いたらどうか。

事 務 局：世帯主のみのアンケートとし、世帯構成等が分かる内容に修正する。
なお、現在のアンケートは、回答対象を世帯主及び高齢者を含む公共交通を利用している方としている。世帯主だけを対象とした場合、マイカー利用者が多いため、公共交通を利用しないという回答が多くなると想定される。利用者の意見を多く取り入れるため、２種類のアンケートを考えた。

大霜会長：アンケートが来た場合、お年寄りは細かい文字が読めないため、結局、世帯主などが記入している。そういった現状を踏まえ、初めから世帯主のみに記入してもらうべきである。

高山副会長：少なくとも調査用アンケートに記載されている「家族用」だけでは、公共交通を利用しない方が記入する可能性があるため、「主に公共交通を利用している方」などに修正すべきである。

鷲嶽委員：「世帯主用」と「家族用」をまとめて、設問を少し増やせばよいのではないか。

事 務 局：「世帯主用」と「家族用」を「世帯主用」の１つにまとめ、それぞれの内容を網羅するように修正する。

高山副会長：そうしてもらいたい。

事 務 局：高山副会長と相談し、修正することでよいか。

高山副会長：了解した。

大霜会長：病院などで直接バスの利用状況や目的などを聞き取りしてはどうか。

高山副会長：全員に調査できればよいが、困難であるため、サンプル調査となる。そうなった場合、統計学的に町民全体の意見として拡大できるようにしておかなければならない。世帯主用で配布する場合、全世帯に配布することが可能であるため、問題はない。
また、中学生アンケートは学校にお願いするため、今回のアンケートには記入しないようにしてもらう必要がある。しかし、高校生は町外の高校に出るため、アンケートで回答してもらう必要があるため、“中学生・高校生用”の中学生を削除する必要がある。

大霜会長：商店街や病院に来る方法（車、バスなど）やルート、目的なども調査できればよいと考えている。

高山副会長：アンケートは“発地”側の調査であり、“着地”側の調査もできればよいと考える。予算が許せば調査すればよいと考える。

鷲嶽委員：世帯主といったら、大半が 70 歳代、80 歳代ではないのか。

大霜会長：高齢化率が３割を超えており、３割程度はそういった世帯かもしれない。

高山副会長：世帯に対するアンケートが１種類であれ、２種類であれ、“世帯主以外の高齢者”のことを聞けばよいのかもしれない。

事 務 局：修正し、副会長に相談する。

鷲嶽委員：アンケートの問８に“町が多額の経費を出している”と記載されているが、多額では分

かりにくいため、実際の数字を入れるべきである。

大霜会長：町民が間違った捉え方をする可能性があるため、修正すること。

内田委員：公共交通の利便性を向上するために個人負担が増加することを了承できないため、税金投入という意見になる。また、自分でアンケートを回答する場合、バスは普段利用しなくても、飲み会の後など、たまに利用したいと考えるためバスがあれば良いと回答する。
人口減少や少子高齢化、財政難などの状況を理解してもらうためにも、資料２の現況をコンパクトにまとめたものを併せて送付してはどうか。

大霜会長：財政が厳しい状況を強調するわけではないが、公共交通を便利にすることにより財政負担も大きくなることを、町民に理解してもらうべきである。資料２の４頁の表などは掲載したらよいのではないか。

村上委員：アンケートの回収は、区長や班長がすれば良いと考える。関心がある人は郵送して、関心がない人の意見は回収できないというのではもったいない。また、利用していない人の意見も集め、今後に活かしたい。

大霜会長：回収の際には、是非協力してもらいたい。

内田委員：この計画は今年度中に策定しないといけないのか。

大霜会長：補助金申請のためにも、今年度中に行わなければならない。
アンケートの修正は、事務局と高山副会長に委任する。

高山副会長：分かりやすいアンケートにするためにも、お年寄りに一度回答してもらうとよい。

■　視察先についての意見（資料４）

高山副会長：大野市は地域的には類似しているかもしれないが、市の規模が大きく、需要も異なるため、参考になるか疑問である。
たくさんの路線がある場合、オペレーターシステムに相当経費がかかるということを聞いている。もう一点として、需要により採算面が合わず、タクシー会社が定額で引き受けてもらえない可能性がある。
どこを想定しているかがはっきりしていないと、視察先も決まらないのではないか。複数ある候補地を念頭において、類似した視察先を選定すべきである。あるいは、来年実験を行うのであれば、モデル地区に視察に行くというのも一つである。

大霜会長：一度に全域対応できるとは考えていない。どこか１地区にデマンドタクシーを導入したいと考えている。

高山副会長：珠洲市で「おかえりバス」の社会実験を行った。そこでの問題点は、お年寄りの事前予約ができなかった点である。PR も十分ではなかったが、お年寄りの方の考え方は、バス停で待てば、バスが来ると思いこんでいる。
デマンドのシステムについては、１日前の予約や１時間前までの予約などの事例がある。

内田委員：県外はあまり分からないが、宝達志水町については、予約センターに多額の経費がかかっており、そのため複数の路線から１路線のみ残すことになったと聞いている。
加賀市では、当初２地区別々で運行していたが、利用率が低く採算が合わなかったため、１地区に合併して運行して、採算が合うようになった。しかし、市の関わりとしてはコーディネーター的な役割であり、主体的に動いているのは、住民とタクシー会社である。
また、運行形態も路線型ではなく、区域運行型であるため、参考にはならないかもしれ

ない。

高山副会長：加賀市では、市の考え方は、公共交通がないところは仕方ないというはっきりとした考えのため、住民が危機感を持ち、主体的に行っている。温泉地を回るコミュニティバスが成功したという背景もある。

羽咋市では、無線の予約システムを用いており、このシステムへの初期投資、ランニングコストともに高くなっており、全国各地でトラブルとなっている。最初は、補助金で初期投資を補えるが、その後の維持が困難となっている。

大霜会長：宝達志水町、羽咋市の両方を見るのが良いのではないか。日程は事務局で調整すること。

事 務 局：了解した。

■ その他

大霜会長：穴水では、フリー乗降バスは運行しているか。

西宮委員：門前～穴水間を運行している。

大霜会長：西側は運行しているが、東側は運行していないのは何故か。

西宮委員：交通量が多いなどの理由で警察の認可がおりない。

内田委員：詳しくは分からないが、混雑する場所や道路が狭い、カーブが多いなどの問題があるため、認可されないと思われる。

大霜会長：今後は、デマンド方式も検討していくことになるが、フリー乗降も検討していきたいと考えている。

高山副会長：連携計画の中で、社会実験を行うように検討していえばよいと考える。

特定の地区において、路線などの特性を整理し、警察と協議しながら、フリー乗降をしても影響がないという実験を行い、穴水モデルを作っていけばよいと考える。

また、タクシーはどこでもフリー乗降ができるため、車のサイズもフリー乗降の条件の一つかもしれないため、バスを中型・小型化など、柔軟な対応ができればよい。

中田委員：課題の中で、合理化・効率化という視点と利便性の向上という、相反する内容を検討していかなければならない。アンケートの作成においては、県で実施したものを参考にしたようだが、もし県の結果を今回の計画の中で用いないのであれば、速達性などの項目が抜けているため、アンケートに追加してもらいたい。

現時点では、自家用車を利用しているが、数年先のことを考えた場合、公共交通を利用するかどうかなども聞いてはどうか。

大霜会長：フリーバスについて、標識設置や小規模は道路改修などにより安全性を向上させることにより、対応することができるかもしれない。

財政は厳しい状況であるが、知恵と工夫により課題を解決する「穴水モデル」を作っていきたいと考えている。

鷲嶽委員：スーパーマーケットで、買物客にバス乗車券の無料配布など行っていないのか。

大霜会長：行っていない。

■　閉会

大霜会長：空気を運ぶようなバスを無くし、黒字とはいかないまでも、今ある経費を少しでも減らすようにしていきたい。また、利便性を向上させ、町全体の魅力向上につなげていきたいと考えている。
本日は、長時間にわたり、熱心な議論に感謝する。

－以上－

■　第２回協議会の様子　■